

令和3年度 小松市立安宅中学校 学校評価2

	目標・具体的取組	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>&lt;安心・安全な学校・学級を築き、生徒の主体性を育む。&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会、教育相談部会を毎週開催して情報交換し、生徒に前向きな声掛けや仕掛けをタイムリーに行う。</li> <li>当たり前前の行動をしっかりと見取り、褒める認める言葉をかける。</li> <li>他者を傷つける行為や言動には、毅然とした対応をする。</li> <li>学校行事・生徒会活動を活性化させ、生徒主体となって活動できる場を増やし、自己有用感の向上を図る。</li> <li>生徒アンケートを行い、「学校が楽しい」という問いに対し「楽しい」と答える生徒が90%を超えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会、相談部会を週1回実施し、情報共有をしっかりと行うことができた。また、部会の中で指導支援体制を協議するなど組織的に対応できた。</li> <li>頑張度チェックなど、生徒の言葉を活かして規範意識の向上への啓発ができた。SOSアンケートを月1回実施することで、生徒の心の変化が早期に分かり、面談等につなげることができた。</li> <li>ストック運動で生徒から生徒への「思いやり」の啓発を行うことで、他者を大切にすることを育むよう指導している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会・相談部会を定期的に開催し、生徒の情報をしっかりと共有し、対応の協議をした上で対応できた。しかし、生徒指導部会と相談部会の共有内容が重なってしまうことも多くあり、昨今の問題等を鑑みると、2つの部会を1つにしても良いのではないかと考える。</li> <li>頑張度チェック、SOSシートを月1回実施することで、生徒・教師ともに定期的な振り返りができた。SOSシートは面談に利用するなど、生徒の心の変化を知る機会になっている。頑張度チェックの結果をさらに活用していければよい。</li> <li>心のテーマスピーチやストック運動など、生徒発信で安中プライドについて啓発できた。ストック運動へのコメントが減りつつあるので、生徒会発信で思いやりの醸成につなげていきたい。</li> </ul>
特別支援教育	<p>(適切な支援に向けて工夫を行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の配慮や支援を必要とする生徒への支援を実際に行いながら、より適切な支援に向けて個に応じた支援計画を作成し、全教職員で共有する。</li> <li>小学校と連携を密にし生徒理解や支援のスムーズな引継ぎを行う。(3～5月、その他必要に応じて)</li> <li>特別支援教育支援員による支援計画を作成し、計画に即して支援ができるようにする。</li> <li>生徒の理解や支援について、必要に応じて教育支援委員会を開き、専門相談員の先生との協議なども含め、より良い支援に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月の校内支援委員会で、支援が必要な生徒(個別の支援計画、支援シートを作成する対象生徒)の確認を行った。プロフィールシートの提出、支援計画や支援シートを担任を中心として作成している。</li> <li>小中連絡会では、小学校の関係の先生方(管理職、担任)から、小学校で行ってきたこと(落ち着いた関係づくりとその維持など)や課題についての引継ぎを行った。またその後も必要に応じて関係の先生方から話を聞いている。</li> <li>特別支援教育支援員の計画を毎週状況に応じて作成している。</li> <li>必要に応じて専門相談員を要請し、授業や活動の様子を見て頂き、適切な支援についての助言を頂いている。数人の生徒については検査を行い、結果に基づいた生徒理解及び適切な支援について協議を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要な生徒の状況を校内委員会や夏休みの学年会で協議し、職員会で共有し、生徒の支援計画、支援シートの作成を行った。それらを基に、試行錯誤しながら個別の支援につなげている。</li> <li>小中学校の連携の会やその他必要に応じて情報を共有し、より適切な保護者対応に繋げることができた。</li> <li>特別支援教育支援員(2名)学習サポーター(1名)による支援計画と、教員の支援計画を毎週作成し、全体の見通しを持ちながらより良い支援の実践につなげた。</li> <li>専門教育相談員の先生やセンターの先生から助言を頂き、検査だけではなく個々の生徒の状況に応じた実践しやすい支援の仕方や生徒の見取りについてアドバイスを頂いた。具体的に適切な支援を日常続けていくために、継続的に来校して頂き協議していく必要がある。</li> </ul>
道徳教育	<p>(道徳教育の向上を図り、多面的・多角的な価値観を涵養する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の校内研修会を複数回開催し、資料分析や発問、言語活動の工夫等、「考え・語り合う道徳」の活性化に向けた授業改善を行う。</li> <li>普段の学校生活の中で、良い姿をほめたりするなど、意識的な声掛けを行うことで生徒の道徳性を養う。</li> <li>道徳ノートや授業の様子など生徒の学びを蓄積し、評価に活用することで、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。</li> <li>道徳の時間に生き方を考える生徒が85%以上になることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の校内研修として、講師を招聘し、研究授業の指導案検討会や授業整理会を重ねることで「考え・語り合う道徳」授業の活性化を進めている。</li> <li>教師が、普段の生活の中での良い姿を褒めることを意識すると共に、生徒会を中心に、生徒同士で思いやりを感じた場面をストックしていく「ストック運動」を行っている。</li> <li>道徳ノートは授業者が点検し、コメントを書いて返却している。また、生徒の学びの様子については、授業者やT2が見取り、成長の様子を共有につなげている。</li> <li>道徳アンケートでは、様々な項目で自分の生き方について考えていると答えた生徒は87%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業構想シート」を用いて教材を吟味することで、生徒は道徳的価値について深く考える様子が見られるようになった。</li> <li>「学びのマップ」を基に、考えを伝え合い共に深め合うことができる生徒が増えた。</li> <li>「仁」思いやりを意識した取組や道徳の授業を行ったことで、人のために行動しようという気持ちを高めることができた。</li> <li>全教員でローテーション授業を行うなど、組織的に道徳の授業について検討したり、振り返りして実践を積み重ねることができた。</li> <li>アンケートでは、道徳の時間に生き方を考える生徒が91%へと向上した。</li> </ul>
情報モラル教育	<p>(情報モラル教育を推進し、情報手段を適切に活用できる能力を育成する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心として、本校の現状を踏まえた情報モラルの意識向上に向けた取組(安中ネットの再考や呼びかけ・啓発など)を行う。</li> <li>技術・家庭科の授業などにおいて、継続的に情報モラルについて考える機会を設け、意識を高める。</li> <li>生徒アンケートを元に評価し、SNSとの向き合い方やネットトラブルに対する意識についての項目において、意識している生徒が90%以上になることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月にアンケートにて実態調査を行い、その結果を踏まえて安中サミット等を通じてSNSの利用について啓発を行う予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月に全校集会でSNSの正しい使い方を説明し、12月に小松警察署の方を招聘してSNSを利用する際のトラブルに巻き込まれない方法について講演していただいた。また、タブレットでTeamsを使用する際に注意点を話した上で使用させた。</li> <li>技術・家庭科では2、3年生の授業でネットの正しい使い方の啓発を図る内容の授業を行った。</li> <li>アンケートでは、保護者へのアンケートで「ネットトラブル防止のために家庭で時間やルールを決めよう注意している」という項目が7月から12月で2%となった。今後も意識付けを行うために、保護者への啓発方法を検討していく。</li> <li>来年度生徒アンケートにSNSに関する質問を追加し、評価できるようにしていきたい。</li> </ul>
保健健康教育	<p>(心身の健康)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自らの健康・安全・食に関心をもち、快活な学校生活を送ることができる。「生活リズムチェック週間」を企画し、実施する。</li> <li>「早寝早起き朝ごはん」に心がけている生徒が80%以上になることを目指す。</li> </ul>	<p>5月24日～6月4日に生活リズムチェック週間を実施した。今回から土日を含めた12日間に期間を延長した。1週目を振り返り、目標を立て直して2週目に取り組むことで、日を追うごとに生活リズムを整えることができた生徒が増えた。しかし、生徒アンケートの結果では、生活リズムチェックの結果などから、自分の生活習慣の課題を理解している生徒は84%(前年比 全学年-3%、2年生-12%)、「早寝早起き朝ごはん」を心がけている生徒は76%(前年比 全学年-4%、2年生-18%)に留まっている。学校で自分が役立っていると感じている生徒は、全学年で56%(前年比 2年生-15%)と低く、健康行動の根底となる自己有用感や自己肯定感の醸成が必要である。そこで、自己肯定感の醸成につながる内容を取り入れた学校保健委員会を企画し、9月30日に実施する。2学期以降も定期的に生活リズムチェック週間を企画、実施する。また、機会を捉え、生徒を認めるあたたかな声かけと、生活リズムに関する指導を継続していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月30日に「絆～思いやりについて考えよう」をテーマに学校保健委員会を開催した。生徒の感想から、自他をともに認め合うあたたかな時間を作ることができたことが読み取れた。</li> <li>2学期の生徒アンケートの結果から「早寝早起き朝ごはん」を心がけている生徒は75%(1学期比-1%)にとどまり、2学期の生活リズムチェック週間の結果からも、1学期に比べ就寝・起床時刻が遅くなっていることがわかった。その一方で、生活リズムチェックの結果などから自分の生活習慣の課題を理解している生徒は93%(1学期比+9%)と増加しており、自分の課題は理解しているものの、実践に結びついていない現状にある。そこで3学期始業式に、生徒保健委員会が生活リズムを整えることと、睡眠の大切さについて発表し、1月の生活リズムチェック週間に取り組む予定である。</li> </ul> <p>今後も機会を捉え、生徒を認めるあたたかな声かけと、生活リズムに関する指導を継続していく。</p>
家庭・連携	<p>(情報発信を行い、家庭教育の充実を図る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新、安中安心メールの発信、各種たよりの発行を積極的に行っていると感じている保護者を90%以上にする。</li> <li>学校の様子がよくわかると感じている保護者を90%以上にする。</li> <li>学校と家庭、地域が連携し、三位一体で教育を行うことを目指し、学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じる保護者を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期は、ホームページにおいて各種便りを更新したため、保護者アンケートでは92%が肯定的な回答であった。2学期は学校行事も増えるため、トップメニューの更新も行っていく。</li> <li>学校は子どもの生活習慣の課題を明らかにし、家庭と共有しているという項目で、肯定的な回答が74%であった。4月に学年懇談会は開催することができたが、各種PTA行事が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、保護者と交流したり、地域と連携したりすることが少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期は、ホームページで各種便りの配信、安中安心メールで必要に応じた連絡や依頼の配信を行った。また、12月から学校、保護者間連絡システム(以下『コードモン』)を利用し、学年便り等を配信した。そのため、アンケートの肯定的な回答は90%であった。しかし、『コードモン』の未登録者が学級によっては数名いるため、全員に登録しないと次年度以降『コードモン』のみの運用はしにくく感じる。</li> <li>11月以降、保護者の参観する行事や懇談会等もあったため、子どもの課題を明らかにし、家庭と共有しているという項目で肯定的な回答が80%(中間評価差+6%)であった。目標とする90%には至っていないため、今後とも家庭との連携を進めていく必要がある。</li> </ul>
読書教育	<p>&lt;読書に親しみ、豊かな心を育む&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10分間の朝読書やブックラリーの時間を心静かに過ごせる環境をつくる。</li> <li>図書委員会活動では、生徒の企画を大切にしながら、委員会活動を活性化させる。</li> <li>1、2年生全員で取り組む小学校への絵本の読み聞かせやビデオバトル等の活動を通して、読書活動を積極的に推進する。</li> <li>図書の一人当たりの貸出冊数を、1年生と2年生は40冊、3年生は15冊を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書では、一日のスタートを穏やかな気持ちで過ごすために、落ち着いた取り組み環境が作られている。1年生では、読書が苦手な生徒に向けて読み聞かせを始めた。生徒は毎朝の読み聞かせを楽しみにしている。</li> <li>ブックラリーでは、先生が選んだ本を全校生徒で読むことで、生徒同士の会話の話題の一つになっている。今後も続けていく予定である。</li> <li>図書委員会では、生徒がアンケートフォームを作成し、全校生徒の読書に対する意識調査を行った。その結果を分析することで委員会活動を活性化していく。</li> <li>1学期の一人当たりの貸出冊数は、1年生11冊、2年生5冊、3年生7冊と大変少ない状況であった。今後は、図書委員会で貸出冊数を増やす取組を行う、国語科で図書館を利用するなどの取組を考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書では、教員も一緒に本を読むことで、落ち着いた読書をする環境が作られている。1年生では、1学期期間に読み聞かせを行った結果、読書が苦手な生徒も本に向き合うことができるようになっていく。</li> <li>ブックラリーでは、先生が、選んだ本を全校生徒向けに読み聞かせをしている。その日は生徒同士の会話の話題の一つになっており、生徒が本に興味を持つきっかけとなっている。</li> <li>図書委員会では、前期で読書に対する意識調査、後期に安中読書週間を行った。生徒が主体的に委員会を運営し、読書をするように呼びかけることができていた。</li> <li>図書委員会から呼びかけはしているものの、2学期の平均が1年7冊、2年6冊、3年3冊と平均貸出冊数が大変少ないことが課題である。</li> </ul>

学校関係者評価	
---------	--